

(公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は11月8日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

1. 「人と地球の健康を考える～プラネタリーヘルスケア・フォーラム」が開催されました。

野菜・お米・土壌の3部会が当協会の公益化を記念して共同で計画した共同フォーラムが11月24日(木)ウェビナーと会場参加(日比谷図書大ホール)で開催され、合わせて240名の参加を得て好評裡のうちに終了しました。

国連のSDGsにおいて掲げられる「食料生産と地球環境保全の両立による持続可能な農業の実現」は人類が早急に達成すべき課題ですが、いま自然環境には地球規模での土壌劣化や急速に進む温暖化など、回復不可能な変化が起きようとしており、農業にはこれらの諸課題に対処するイノベーションが求められています。

このフォーラムは、人々と地球の健康(プラネタリーヘルス)は密接に結び付いており、食や土壌のあり方から「健康」の基盤を構築していくことの大切さを提言するものですが、第2部「土壌とヘルスケア～微生物がつなぐ食と農の未来」では、理化学研究所バイオリソース研究センターのチームリーダーを務める市橋泰範先生から「デジタルと微生物利用による新しい農業」と題して基調講演を頂きました。すなわちサイバー空間上で農業生態系をシミュレーションするシステムである「農業デジタルツイン」の開発(土づくりから収穫まで概ね1年かかる農業生産をサイバー空間上で何回でもシミュレーションできる仕組み)、「共生体リソース」の開発(植物と共生する微生物・菌根菌の培養)等、農業イノベーションに貢献しうるデジタル技術や微生物利用に関する現状報告と将来展望の画期的な内容でした。

その後、市橋先生を含めて、森林研究・整備機構森林総合研究所の藤井一至先生、産業技術総合研究所の菅野学先生による熱気のこもったパネルディスカッション「土壌とヘルスケア」が展開されました。(モデレーターは土壌部会事務局の中嶋浩平次長)

このフォーラムで提起された、食や土壌のあり方から「健康」の基盤を構築していくことの大切さの提言は、3月17・18日に開催される年次大会に引き継がれていきます。



2. 「牛乳でスマイルプロジェクト」に関わる連携が進んでいます。

JAHIは、農林水産省が一般社団法人Jミルクとともに、本年6月に立ち上げた「牛乳でスマイルプロジェクト」に本年10月に参加しましたが、12月7日にはJミルク殿幹部がJAHIを訪問され、今後の連携事業の進め方について協議が行われました。Jミルクは、酪農乳業関係者が一体となって、生乳および牛乳乳製品の生産・流通の安定並びに消費の維持拡大を図る団体であり、このプロジェクトは、たとえば例年、年末年始に生産される生乳の量が、全国の処理能力を一時的にオーバーしてしまう事態を業界ぐるみで防ぐため、抵抗力・代謝をサポートする牛乳をアピールし、「1日1リットル運動」や「私のミルク鍋」提案をキャンペーンしようとするものです。

JAHIでは共通ロゴマークの普及にも努めていきます。

3. 昭和女子大学寄付講座「新たな市場創造とヘルスケア・ビジネスの開発」が進んでいます。

JAHIが毎年開催している同大学寄付講座は、本年度67名の登録(昨年度の約2倍)を得て順調にリアル開催されており、12月1日には平野健一講師(サンキュードラッグ)による「データマーケティング/ID-POS、電子タグ」、8日には小原道子講師(帝京平成大学)による「社会インフラとしてのドラッグストア/介護連携、移動薬局、AED」が講じられた。